

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、回復している。

前回の概況公表時（12月上旬）以降の県内景気をみると、労働需給が引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかな増加基調にあるもとの、個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調としては持ち直している。観光は横ばい圏内で推移している。公共投資は増加しているほか、設備投資は高めの水準ながら、足もとにかけては弱めの動きがみられており、住宅投資は基調としては増加している。製造業の生産は横ばい圏内の動きとなっている。

この間、企業の業況感、製造業が海外経済減速による受注の下振れなどを背景に悪化したほか、非製造業が横ばいとなった。この結果、全体では悪化した。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が続くもとの、回復が続くと考えられる。もっとも、①海外経済を起点とした県外需要の動向、②人手不足の影響、③これらを踏まえた企業・家計の中長期的な成長期待等の影響について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、増加している。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、12月は前年を下回った（19/12月前年比：▲40.0%）ものの、年度初来累計額（12月までの累計）は前年を上回っている（年度初来累計前年比：+26.8%）。また、公共工事の出来高は、過年度の公共工事予算の執行が進むもとの、増加しているとみられる。

設備投資は、高めの水準ながら、足もとにかけては弱めの動きがみられている。

2019年度の設備投資額（19/12月短観ベース）は、製造業で過年度の大型投資の反動が見込まれるほか、非製造業で新規出店の抑制が続いていることから、全体でも前年度比減少の計画。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備（19/12月短観ベース）は、不足感が強い状態が続いている（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>、19/9月：▲3→19/12月：▲3）。

個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調としては持ち直している。

大型小売店¹の販売動向をみると、持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、基調としては前年を上回って推移している。家電量販店販売額や乗用車新車登録台数（19/11月前年比：▲11.6%）は、前年を下回っている。また、旅行取扱高は、基調としては増加している。

観光は、横ばい圏内で推移している。

県内の主要観光施設への入込客数（19/11月前年比：▲18.0%＜速報値＞）は前年を下回ったものの、主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+2.8%）は前年を上回った。

住宅投資は、基調としては増加している。

新設住宅着工戸数をみると、持家を中心に前年を上回った（19/11月前年比：+9.9%）。

2. 生産

製造業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

機械は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては増加傾向にある。食料品は、横ばい圏内で推移している。窯業・土石製品は、一部に弱めの動きが続いているものの、全体としては下げ止まっている。パルプ・紙・紙加工品は、海外向け製品を中心に減少している。鉄鋼は、減少しつつある。

3. 雇用・所得

労働需給は、引き締まった状態が続いている。

有効求人倍率は、高い水準にある（19/11月：1.27倍）。常用労働者数は、前年を下回った（19/10月前年比：▲1.2%＜速報値＞）。この間、企業からみた雇用人員（19/12月短観ベース）は、不足感が根強い状態が続いている（雇用人員判断D.I.＜「過剰」－「不足」＞、19/9月：▲33→19/12月：▲29）。

雇用者所得は、緩やかな増加基調にある。

1人当りの現金給与総額は、サンプル替えの影響を除けば緩やかな増加基調にある（19/10月前年比：+1.0%＜速報値＞）。こうしたもとで、常用労働者数と1人当りの現金給与総額の積として表される雇用者所得は、緩やかな増加基調にある。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

4. 物価

消費者物価の前年比は、0%台半ばとなっている。

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）の前年比は、消費税率引上げなどにより食料（除く生鮮）を中心に前年を上回ったことから、0%台半ばとなった（19/11月前年比：+0.6%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（19/12月：倒産件数4件<前年5件>、負債総額347百万円<同4,778百万円>）。

6. 金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、個人預金や法人預金の増加から、前年を上回っている（19/11月末残前年比：+1.2%）。

貸出（同）は、地公体向けや個人向けを中心に前年を上回っている（同：+1.4%）。

貸出約定平均金利（銀行）は、低下している（19/11月：1.337%）。

以 上

【本文中の使用計数などの出所】

- ・乗用車新車登録台数：四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数：国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額：西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率：厚生労働省「一般職業紹介状況」、常用労働者数・現金給与総額・雇用者所得：高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「倒産月報」。
- ・その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・なお、利用統計は公表月によって異なる。